

オオゴマシジミ調査

2021・7・3

Nagamori ; With Ando, Kohno

オオゴマシジミの幼生期調査は最難敵。完本作成時も芝田、石黒さんと月形町に何回も挑戦し、やっとのことで芝田さんが《神の手》で埋もれ木の中から終齢幼虫を1匹見つけ出したもの。その後月形から共和町にフィールドを変え連敗を続けながら挑戦を続けています。

昨年8月1日の安藤氏と河野氏との挑戦では、盛んに産卵活動が見つつ、幼虫のホストとなるアリのコロニーを河野さんの指導で調べ、朽ち木にクシケアリのコロニーを見つけ、その分布がある程度わかりました。ただ狙いの蛹などのオオゴマの形跡は見つかりませんでした。幼虫が入ってくれることを願い自宅にあった使い古したシイタケ栽培のホダ木を持ち込んで10か所ほど埋めておきました。

今回は、時期的には終齢か蛹か、埋めた木での成果も期待しながら発生地共和町に入りました。



2020・8・1撮影



8時55分現地着

アリの襲撃に耐えるように身支度を整え、やぶに分け入ります。埋めた朽ち木は見つかりました。が、しかし、まだ巣材に使われていません。熊手で地面をかき分けてクシケアリの巣を探します。埋もれ木周辺や枯葉の貯まったところにコロニーが見つかりました。丹念に巣を崩します。アリの幼虫がたくさん見られると緊張が走ります。





アリの幼虫は木の根元にたまった枯葉の下にもいます。上の写真がそうです。また堆積したオオイタドリの枯れた茎の中にもびっしり入っています。大型のコロニーはその下に朽ち木や土の中に延びる巣穴が続いています。食草であるクロバナヒキオコシがある斜面が可能性が高いだろうと目星をつけ、滑落しないようにササや樹の枝につかまりながら移動します。巣をかき回すとクシケアリは手を這い上がり軍手と上着の隙間から侵入し刺します。これがかなり痛い。探索はいったん中断してアリを払い落とします。2時間近く頑張るが、オオゴマ幼虫は見つからない。サッカーの試合よろしく引水タイム。3人で情報共有しながら、河野さん持参の仁木町のサクランボの差し入れをいただく。おいしいおいしい。もうひと踏ん張りしましょう！






オオゴマ搜索中のA先生(右写真の矢印の先)

3人それぞれ食草の繁茂する斜面の上に這い上がったり、群落の縁の樹林帯に潜り込んだり、搜索続行するも発見の知らせなし、今度は昼飯の休憩タイム。たっぷり水分も補給し再挑戦。


そして12時39分、ついにオオゴマの蛹を掘り出した！熊手でコロニーに被さっている枯葉を、がさっと引っ掻いた時にふかふかの腐葉土と共にころがりだしてきたのだ。

早速二人を呼んで、やったやったと「撮影会」。蛹はあめいろに透き通っていて実に美しい(思い入れが加味されている)。





この枯葉が被さっていた




ひっくり返っている蛹

3人で巣の状態を確認し、蛹は枯葉の上の方まで上がってきているのでしょうかなどと話しながら、まだいそうですね、と周囲の枯葉をめくり始める。と、つまんだ枯葉の下から突然白い前蛹が出てくる。あれれ、その隣には蛹が1個隠れている。すごいすごい。

蛹化は枯葉の堆積した上部まで移動し、上の枯葉にぶら下がるようにして行われるようだ。そして、完本取材時に芝田さんが指摘していた通り、そのままころっと落下するようだ。

また、撮影会の始まりです。



枯葉にしがみつく前蛹

撮影会場はこんなところ



枯葉をめくってさがしたのでかなりの部分で表土が見えている。

コロニーの全体

堆積した枯葉

アリの幼虫

イタドリの枯れ茎

トンネル状の巣

枯葉をはがしてみると葉の隙間にアリの幼虫が密集していた

ここまでの観察から、オオゴマ幼虫の蛹化について考察してみました。左上の写真は、蛹は発見されなかったものの、クシケアリの巣の構造がわかる写真です。手前に大きな石が被さっていてそれを取り除いて出てきたコロニーです。イタドリの茎からその下の砂がちな腐葉土層に巣穴がつけられています。アリの幼虫が少し見えていますが、多くはイタドリの枯れ茎の中と葉の間に密集しています。地表近くのこれらの幼虫は、おそらく春から生産された幼虫の新しい居場所でしょう。オオゴマ幼虫の越冬は土の中、どのくらい深く掘られているかわかりませんが、巣の本体？でおこなわれるのではないのでしょうか。その後、春からアリのコロニーは拡大していくのでしょうか。その辺でオオゴマはどこに移動して幼虫を食い漁るのかはまだよくわかりません。とりあえず蛹化の行動についての考察を次頁に図で示します。

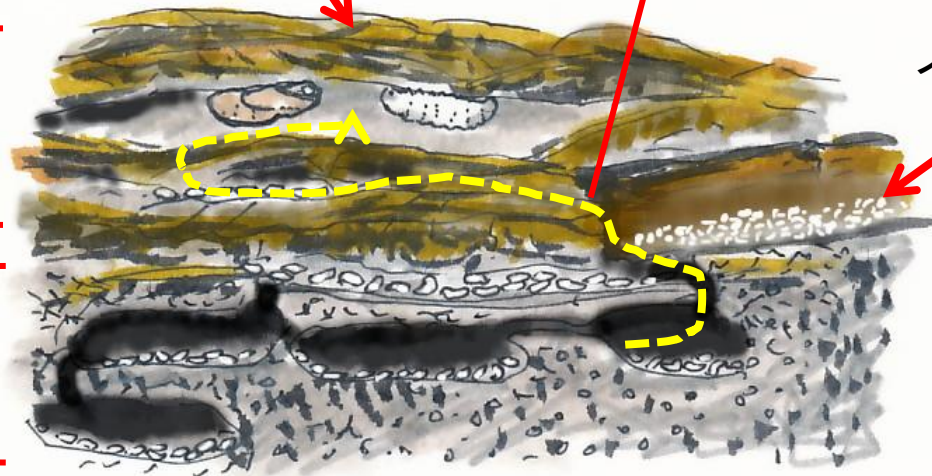
アリの巣の構造と蛹化行動

枯葉にしがみついて蛹化

終齢は巣の本体から離れの
地表付近の枯葉の間に移動

昨年来の枯葉の堆積層

イタドリの枯れ茎



朽ち木や腐葉土層の内部のトンネル状のアリの巣

別な巣でもう一つ見つけたいね。と頑張ってみるが見つからず14時半に終了。
なんとか3人の執念(15時間の実働時間)で完結したミッション。メデタシメデタシ。

次は若齢幼虫の様子と、最難関越冬状況に挑んでみようか。それにしても体力の消耗するミッションなのでした。

オオゴマシジミ幼虫のHostのアリは、河野さんによると、完本の図鑑に示したハラクシケアリではなくモリクシケアリではないかということで、今回サンプルを持ち帰り、専門家に同定依頼中です。



おわり: by Nagamori